

教科等研究会（中学校総合的な学習の時間部会）

令和2年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方
～生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを通して～

2 研究経過

	期日	人数	活動内容	場所
第1回	7/10(金)	9	研究テーマ・計画・組織等協議 (半日)	甲佐中学校
第2回	10/13(金)	7	研究授業・授業研究会 (半日) 単元名：「夢の実現について考える」 授業者：教諭 米田 豊和	甲佐中学校

3 研究の概要

(1) 研究の内容

これまで本部会では、総合的な学習の時間の目標に焦点を当て、「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」を、研究テーマに設定して取り組んできている。また、学習指導要領では、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることの大切さを述べている。本部会では、このような言語活動を計画的に設定し、「分かる・できる」「楽しい」という学習への満足感を高めることをめざし、副題に取り入れて研究を推進していくこととした。

① 学習指導要領趣旨理解の研修

本年度も、部会員の構成が大きく代わったため、学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点と学習指導の展開例を確認するとともに、新学習指導要領の方向性について研修を実施した。

学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点については、学習指導要領から必要な内容を抜粋して、開設当初からの流れと課題点に対する具体的な改善点を確認した。

具体的な学習指導の展開では、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」を使って、以下のことについて協議した。

ア 探究的な学習 イ 協同的な学習 ウ 体験活動の重視 エ 言語活動の充実
オ 評価の観点・方法

② 単元計画作成と探究的な活動の「整理・分析」段階の演習

各学校の単元計画作成状況・各教科との関連表を確認し、各学校で本年度作成する単元計画の見通しをもつことができた。探究的な学習活動や協同的な学習活動については、具体的な活動や活動上の課題点を出し合い、自分の学校の状況と比較してもらい、課題解決を行った。

探究的な活動の演習では、「整理・分析」段階でどのような活動ができるのか、どのような対話、アドバイスによって学習が深まるのかを全員で考えた。グラフ化、ベン図、座標軸、ブレインライティング、ビフォー・アフターなどの技法を学ぶことができた。



〔資料1〕演習の様子

- ③ 新型コロナウイルス感染予防に対する対応について情報交換及び内容の検討
新型コロナウイルス感染予防のため、行事の精選が行われる中、総合的な学習の時間の活動にも制限が多くあった。そこで、各学校の限りある条件の中で子どもたちに総合的な学習の時間でつきたい資質・能力をつけるためにどんな工夫をしているのか、情報交換を行った。各校のアイデアを出すことで、苦慮していた課題が解決できたり、感染対策に気を付けながらできる内容を検討していったりすることができた。

(2) 成果と課題

成果

- ・新学習指導要領の先行実施により、全体計画の考え方や様式が大きく変わったことをふまえた各校での全体計画、単元計画の見直し・作成が行われた。
- ・学んだことをまとめ表現するために有効なスキルや教材を考えることができた。
- ・総合的な学習の時間の内容を臨機応変に対応することができた。
- ・新型コロナウイルス感染予防に対する対応を行いながらの内容の精選、見直しをすることができた。
- ・総合的な学習の時間の進め方に見通しを持つことができ、探究的な活動の流れをつかむことができた。

課題

- ・新学習指導要領の目標と内容を網羅しながら、単元計画を見直す必要がある。
- ・どの学校も固定化された総合的な学習の時間の計画や体験学習になっているが、担当者が代わると活動が元に戻ってしまう。地域学習の連続性・発展性がなされていない。
- ・学習単元計画の完全作成と年間計画にリンクさせた探究的な学習の展開を計画段階として完成させる必要がある。
- ・「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」など子ども達の自己評価、相互評価、教師側の評価についても計画的・継続的に実施する必要がある。

4 実践事例

(1) 授業研究会の概要

単元名「夢の実現について考える」 授業者：甲佐中学校 教諭 豊田豊和

本授業は、2年生の進路学習「情報収集・まとめ・表現」の授業であった。

① 自評

- ・2年生の総合学習のテーマは「地域に学び、自己を伸ばそう」である。それを受け、探究課題を「地域の産業及び働く人々」とし、「自分のなりたい姿」を設定し、細やかな目標の振り返りを継続している。2学期に新型コロナウイルス感染予防のため、職場体験実習でなく、「職業学習」に切り替えた。熊本出身であるパイロット・客室乗務員・整備士の方を講師として呼び出した。
- ・外部から講師を招いて模擬面接と、生徒からの質問を中心に組み立てていただき、講話を中心に実施した。アンケート調査より「職業を選ぶときに大切だと思うこと」の回答に「給料が高いこと」「社会や人の役に立つこと」「趣味などの自由な時間がもてること」の項目が全国平均を上回っていた。これらを踏まえ、人の役に立つことの喜びにつながる勤労の価値ややりがいといった視点を大切にしながら職業について深く考えることを通して育成を目指す資質・能力を高めたいと考えてきた。
- ・今回は、めあてに対しての振り返りまでを行いたかった。そこで、班活動を活発に行わせる工夫をした。話合いのまとめでは、誰かの意見を抜き出すということではなく、みんなの意見を練り上げるということをさせたかった。

② 質疑応答

Q 今までの流れと今後のことについてどのように行っていくのか。具体的に教えてほしい。

A 今までは地元の方に来ていただき、自分の興味のある方に話を聞くというスタイルで講話をしていただいた。その後、模擬面接をこれも地元の方を中心に面接官になっていただき行った。これからは新たな講師として、ニュースキャスター・テレビのプロデューサー・カメラマンをお招きし、今回と同じような形で講話をしていただく。子どもたちの興味・関心は高かった。最終的には自分の将来の職業と関連付けながら、子どもたちの職業観を磨かせていき、将来の夢の実現のために今自分がやるべきことは何かを考えさせていく。

Q たくさんの講師の方を今回の学習のために開発されたとのことだが、どのようにしてきめ

ていったのか。

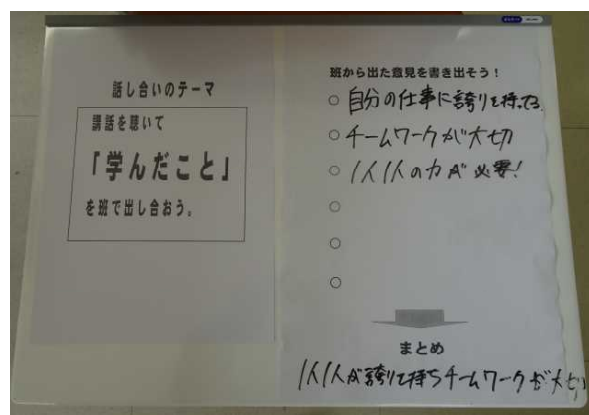
A 人材開発については、校長から案が示された。また、生徒の要望の中から決めたこともあった。今回、「体験」という形では行えなかったが、「リモート」という形で、普段接することがない職業の方をはじめ、いろんな業種とつながれる可能性を感じた。

Q 講師の方のアポイントやリモートに関して、どんな準備を行ったか。

A 今回のパイロットの方たちとは1か月前くらいから週3回くらいメールでやり取りを行った。1週間前にZoomの確認を行うために直接やり取りを行った。その時に初めてお会いした。リモートに関しては、ICT支援員が2名おり、サポートしてもらった。

Q 効率よく話し合われていたと思う。まとめに関して、子どもたちがまとめられるようにどんな工夫を行ったか。

まとめ方を子どもたちに提示していけば、上手にまとめられるのではないかと職員の中で話し合い、話し合いの流れがわかるようなツールを作り子どもたちに提示した。今後、ほかの教科等でも使っていければいいと思う。また、班長（司会）・記録係・準備係・道具係と役割分担を行い、スムーズに話し合い活動に入っていけるようにした。また、「学ボード」（資料2）という教材を購入してもらいみんなで考えたことが視覚化できるようにした。話し合わせた後に、個人思考をさせ、自分のこととして捉え直させたい。



〔資料2〕「学ボード」

(2) 学習指導案

- ① 本時の目標 自分の調べた仕事をクラスで紹介することで、内容や考え方を話し合い共有し考えを深める。
- ② 本時の展開

過程	学習活動	支援及び評価
導入 5分	1 パイロット・客室乗務員・整備士の自己紹介。（航空会社も） 2 本時のめあてを確認する。〔資料3〕	1 自己紹介を傾聴させる。 2 将来の夢を実現させるために必要なことは何かを考える時間であることを説明する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>どのように夢を実現させたのか また、自分が今やるべきことは何かを学ぼう。</p> </div>		
展開 9分	3 パイロット・佐々木さんの講話〔資料4〕 (1) 仕事の紹介 (2) 目指したきっかけ (3) 適正とは (4) 必要なこと	3 出身地・出身高校や大学、甲佐町との関わりや思い出を最初に伝えることで、生徒が親しみやすい雰囲気をつくり、講話の内容が理解しやすいようにする。〔資料5〕 <div style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</div>
9分	4 客室乗務員・塚本さんの講話 (1) ~ (4) 同じ内容で講話。	
9分	5 整備士・吉村さんの講話 (1) ~ (4) 同じ内容で講話。	
8分	6 甲佐中2年生からの質問〔資料6〕 (1) パイロットに質問（佐々木さんへ） ①操縦していて身の危険を感じたことはありますか？ ②操縦席にボタンはいくつありますか？ (2) 客室乗務員に質問（塚本さんへ）	【思考・判断・表現】 6・仲間の質問を自分のこととして捉え、講話のポイントである (1) 仕事の紹介 (2) 目指したきっかけ (3) 適正とは (4) 必要なこと

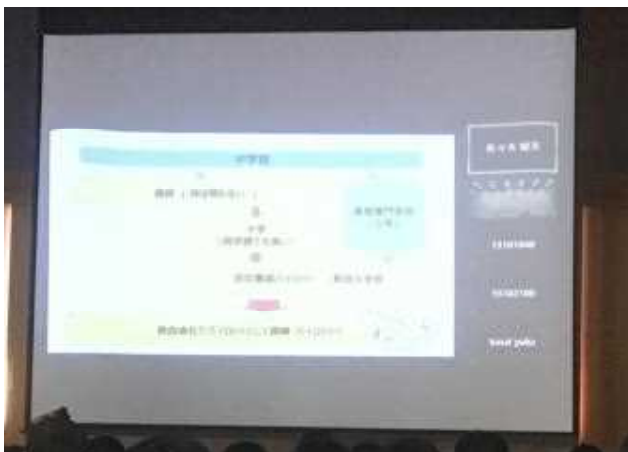
	<p>①お客様を喜ばせるために心掛けていることは何ですか？</p> <p>②指示に従ってくれないお客さんには、どのように対応するのですか？</p> <p>(3) 整備士に質問 (吉村さんへ)</p> <p>①フライト中に壊れたら一番焦る部品は何ですか？</p> <p>②一機の飛行機を整備するのにどのくらいの時間がかかりますか？</p> <p>※パイロット①客室乗務員①整備士①→パイロット②・・・の順番で質問していく。</p>	<p>に加えて、将来の夢を実現させるために、必要なことは何かを思考させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋紙に学んだこと、分かったことを記入し、終末の班での話し合い活動に活用できるようにする。
<p>終末 10 分</p>	<p>7 本時を振り返り、学んだことや今、自分がやるべきことについて意見を出し合う。(班で)</p> <p>8 班で出た意見を講師の方々に伝えてコメントをいただく。</p> <p>9 めあてが達成できたか振り返りをする。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働的に取り組むことで、新たな視点を得ることができる。 話し合いボードと付箋紙を活用しながら主体的・対話的で深い学びに繋がるようにする。 自分のやるべきことが分かり、将来を見通すことができる。



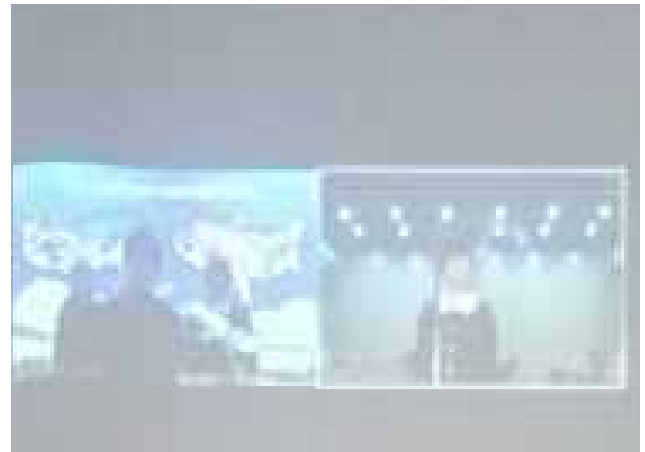
〔資料 3〕



〔資料 4〕



〔資料 5〕



〔資料 6〕

③ 本時の評価

- 評価基準…①自分の夢の実現に向けて自分に必要なものは何か考えることができる。【思考・判断・表現】
- ②的に取り組むことで新たな視点を得ることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
- 評価方法…①②観察・ワークシート
- 評価時期…①②授業中と授業後